令和6年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第五中学校 校長名：榎戸 千代子

<p>【経営理念】</p> <p>(1) 一人一人の生徒を大切にする</p> <p>(2) 生徒の良さ、可能性を伸ばす</p> <p>(3) 教師の持ち味を生かして勝負する</p>

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

<p>【学校運営協議会・会長】 堀内 一弘</p> <p>学校運営協議会（学校評価分）</p> <p>第1回 令和6年 7月 4日（木）</p> <p>第2回 令和6年 11月 7日（木）</p> <p>第3回 令和7年 2月 13日（木）</p>	
---	--

項目	計画・取組			自己評価（令和6年12月25日現在）				学校関係者評価	
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	全生徒に対しての基礎学力の定着、家庭学習の習慣化を図る	「学習の手引き」や「学習計画表」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。各教科で家庭学習課題に継続して取り組ませる。	生徒アンケートにおいて、家庭学習に取り組んでいる生徒が75%以上	62.7	B	家庭学習に積極的に取り組んでいる生徒は47%だった。以前より改善傾向にあるものの、まだ目標には届いていない。	教員の指導方法の改善を進め、家庭で取り組みやすい課題を設定する。その中で生徒が「できた」という感覚をもち、それを教師が認めることで生徒の意識を高める。	夏季講習の定例化等学校の取り組みの姿勢により、前向きにとらえている生徒が増えている。	B
		地域未来塾事業や都立武蔵村山高校の生徒の学習サポーターを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に補充教室を実施する。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。	100	A	国語は50.6→51.8と0.8ポイント上昇した。数学は48.8→48.9とほぼ横ばいの状態であった。2教科とも上回ってはいるものの、大きい改善にはつながらなかった。	教員の授業研修を継続して行う。また安易にレベルを下げるのではなく、生徒が「できた」と思えるような課題設定を工夫して行う。	夏休みの学習サポーター事業で高校生としっかり学習できていた。	A
豊かな心の育成	生命尊重や思いやりの心を育成し、仲間を大切にすることができる生徒を育てる	特色ある教育活動推進校として、生命尊重や思いやりの心の育成をテーマに講演会や授業を行う。	生徒、保護者アンケートにおいて生命尊重や思いやりの心が感じられたと答えた割合が75%以上	101.3	A	生命尊重、思いやりに関する設問では、肯定的な回答が76%だった。目標とする数値に到達したものの、今後の改善の余地はまだあると考える。	今年度継続して取り組んでいる講演会、授業、朝礼の校長講話に加え、セーフティ教室でも「いじめ防止」をテーマに行い、生徒の成長をより促す。	地域の方とのふれあいや人権教育の授業によっていじめに対する心構えができていていると感じる。	A
		年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、人権教育に関する授業を行う中で生徒が主体的にいじめ防止の取り組みを行うように推進する。	教員の自己評価や、生徒、保護者のアンケートの中でいじめ防止に取り組み、いじめがあったときは早期に対応しているという答えが75%以上	113.3	A	生徒75%、保護91%、教員89%がいじめへの早期対応に対して肯定的な回答をしていた。目標は達成しているものの、生徒の結果はまだ改善の余地があると考ええる。	教員から生徒への声掛けを継続して行い、何時でも困っていることを相談できる環境づくりをし、教師が生徒を気にかけていることを伝える。	引き続きいじめ問題に関して優先的に取り組んでもらいたい。	A
健やかな体の育成	基本的な生活習慣を見直し、高齢者、障がい者理解を深め、身ともに健やかな生徒を育てる。	パラリンピアンなどを講師に招き、豊かな国際感覚を養うとともに、高齢者疑似体験や交流を通して、高齢者・障がい者理解やボランティア活動を推進する。	体験活動や交流活動を年間1回以上行う。	100	A	パラリンピアンとして車いすバスケの網本麻里選手を招いて車いす体験を行った。また、高齢者疑似体験を通じて、高齢者・障がい者理解が進んだ。	来年度も高齢者・障がい者理解学習を行い、その経験をもとにアウトプット活動をしてまちづくり学習につなげる。	パラリンピックの意義を伝えてもらいたい。	B
		基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高めるために、歯科講話や歯磨きキャンペーン、給食の残食ゼロウィークに積極的に参加させる。運動会への取り組みを通して、自分自身の生活と、身の周りの運動との関わりを考えさせる。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和5年度調査との比較で向上している。	100	A	男子はC以上の割合が19%→53.2%と飛躍的に向上している。女子は73.2%→76%と微増であるものの高い基準を保っている。	基本的な生活習慣を確立するキャンペーン、運動会への取り組み、球技大会などの学年行事を通して、自分自身の生活習慣と身の回りの運動との関わりを考えさせる。	自己の健康の大切さを実感させ、社会人となるべき人としての生活習慣を身に付けられていると思います。	B
まちづくり学習の充実	地域を知り、地域を大切にすることを育て、地域とともに生きていることを自覚し、自ら進んで地域に貢献できる生徒を育てる。	創設11年目を迎える五中レスキュー隊を中心に、北多摩西部消防署と連携し、地域防災訓練活動を行う。また、小学校や地域へのボランティア活動に積極的に参加させ、地域に貢献できる人材の育成を図る。	生徒、保護者、地域へのアンケートの中で、地域のことを意識して活動できているという生徒が75%以上	67.6	B	生徒30%、保護者85%、教員88.8%が肯定的な回答をしていた。生徒は地域に積極的に貢献している生徒と、していない生徒の二極化がはっきりとしている現状である。	ボランティア活動の機会をより多く設定し、取り組みやすい環境を作り、参加を促すように啓発する。また、授業では取り組んでいるまちづくり学習が地域につながることを実感させる。	地域としても機会を増やす努力をしたい。	A
		地域を知り、地域を大切にすることを育て、地域社会に貢献する生徒を育成するため、地域について調べ、地域と連携した、五中フェスティバルや職場体験、プロから学ぶ会を開催する。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えたり、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上	121.4%	A	この設問に回答した保護者の85%が肯定的な回答をしている一方、「わからない」と回答した保護者が多かった。保護者が学校の取り組みに関心をもてるようにすることが今後の課題である。	学校だより、Xを使い情報発信をするとともに、生徒が主体的にまちづくり学習に取り組む機会を設定し、学校の様子を家庭で伝えられるようにする。	防犯パトロールの継続はととも良い。五中フェスティバルを通して地域のとのつながりを実感できている。	A
学校裁量	自他の生命を尊重し、他の思いやる心を育てるとともに、自ら考え、共に学び、積極的に社会に貢献する態度を養う。	特別の教科 道徳の授業を通じて、全学年重点項目である「B(6)思いやり、感謝」と「D(19)生命の尊さ」に係る授業を学期に1回以上行い、自他の生命を尊重し、他を思いやる心を育てる。	生徒の道徳振り返りワークシートにおいて、授業の内容を深く考えることができたという生徒が75%以上	103.2	A	1年77.5%、2年78.3%、3年76.6%の生徒が授業の内容を深く考えることができたという回答した。研修のテーマでもある「あいさつ」「思いやり」「生命尊重」の心は生徒に根付いていると考えられる。	特色ある教育活動推進校として、来年度の研究発表に向けて、講演会、授業などの取り組みを通じて、「あいさつ」「思いやり」「生命尊重」の心を育てる教育を継続する。	お年寄り、障がい者との接点を多くすることで、生命尊重、思いやりの心を継続して育ててほしい。	B

※ 到達度 = 達成値 / 目標値